

自主 友愛 好学

薩摩川内市立川内中央中学校

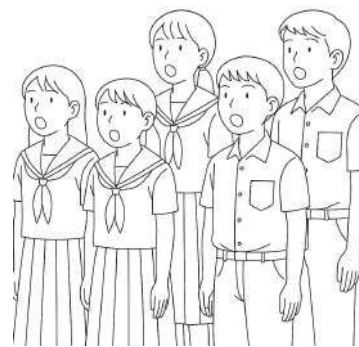
自主 友愛 好学

「校歌の風景」

校長 前野 耕一

学校で行われる卒業式など、節目となるさまざまな場面で欠かせないものの一つに「校歌」があります。校歌は、自分たちの学校を歌で表した、いわば「みんなの歌」です。日常の中では意識する機会が少ないかもしれませんが、そこには学校の歴史や願いが大切に込められています。今回の学校便りでは、川内中央中学校の校歌について、少し見つめてみたいと思います。

川内中央中学校の校歌は、今から45年前、川内東中学校と川内西中学校が統合されるときに誕生しました。その際、校章とともに一般公募が行われ、約30編の応募作品の中から選ばれたのが、県内ゆかりの作詞家・内 与詩守（うち よりもり）氏の作品です。こうして生まれた校歌には、新しい学校への期待とともに、それまでの2つの学校の歩みがしっかりと受け継がれています。実際に、東中・西中それぞれの校歌と読み比べてみると、川内中央中学校の校歌には「統合校としての継承」が大切に織り込まれていることが見えてきます。



校歌
作詞 内 与詩守
作曲 薩摩 龍陽

一 紫尾の山が明けそめて
希望にみちる朝は来ぬ
見よ向学の意気に燃え
真理の道をひとすじに
われら川内中央中

二 川内川の水青く
流れてめざす虹の海
ゆたかな心よせあいて
ああ友情の花ぞ咲く
われら川内中央中

三 文化をほふるふるさとの
歴史の森の気高きよ
三年の試練のり越えて
世紀のあすを開かむ
われら川内中央中

まず一つ目は、「自然の描写」です。両校の校歌に共通して登場するのが、「紫尾山」や「川内川」といったふるさとの風景です。東中では「紫尾山上に光あり」「川内川にそそぐ」と歌われ、西中でも「紫尾を大いなる希望に仰ぎ」「大川のしぶき」と表現されています。そして中央中の校歌では、「紫尾の山なみ 明けそめて」「川内川の水青く 流れてめざす」と、山と川の情景が美しく歌われています。紫尾の山なみは校舎から直接望むことはできませんが、川内川河川敷からはその姿を確認することができます。

ので、ぜひ、一度紫尾の山なみを確認してみてください。身近な自然とともに歩んできた地域の記憶が、校歌の中に息づいています。

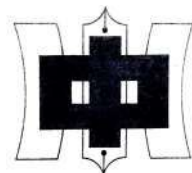
二つ目は、「真理」や「希望」といった学びの精神です。東中の校歌には「理想は高き」「正しき道をふみわけて」とあり、西中では「永遠の真理をひらく」と歌われています。中央中の校歌では、これらの思いが「真理の道をひとすじに」「向学の意気に燃え」として表現され、学び続ける意志へとつながっています。特に「希望」という言葉は、3校すべてに共通して登場し、未来へ進もうとする思いを象徴する大切なキーワードとなっています。

三つ目は、仲間とのつながりです。東中では「いざいざゆかんもろともに」と共に進む決意が示され、西中では「友愛の誠は篤し」と深い友情が語られています。中央中の校歌では、それらが「ゆたかな心 よせあいて」「友情の花ぞ咲く」という、柔らかく温かな表現へと受け継がれています。仲間と心を寄せ合いながら成長していく姿が、やさしく描かれているのが印象的です。

このように、川内中央中学校の校歌には、東中・西中の歴史と願いが確かに受け継がれています。「ふるさとの自然を愛する心」「真理や理想を求めて学び続ける姿勢」、そして「仲間とともに歩む大切さ」。どれも、これまでの先輩方が大切にしてきた思いです。

校歌を歌うとき、ただ声を合わせるだけでなく、その言葉に込められた意味にも少し関心を寄せてみてください。先輩たちの願いを受け継ぎながら、今をともに過ごす仲間と心をひとつにし、自分たちの未来を切り拓いていこうとする気持ちを大切にしてほしいと思います。校歌は、これからも皆さんとともに歩み続ける、大切な学校の宝物です。

【川内中央中学校の校章】校歌と共に募集された校章には、約110通の応募があり、前屋 至（まえや いたる）氏のデザイン画が選ばれました。作者の制作意図は「東中と西中を左右に、中心は中央中としてのびゆく姿をペンで表現しています。また、川内川のデザイン化となっています。」最終バージョンよりもやや横に広いデザインです。



もしもの事態に備えて ～ 原子力災害引き渡し訓練 6月13日(土)～

薩摩川内市で震度6の地震が発生し、原子力災害に関する「警戒事態」が出されたことを想定し、川内中学校区災害時等における児童・生徒の引き渡し訓練が実施されました。本訓練は、川内中央中学校区で就学する全ての児童・生徒を安全且つ円滑に保護者に引き渡すことをねらいとしています。安心・安全メールによる保護者への訓練通知後、引き渡しカードを基に、引き渡し者の確認を行い、生徒の引き渡しが行われました。保護者の皆様の協力により、円滑に訓練が実施できました。ありがとうございました。



【整列し保護者の到着を待つ生徒たち】

ネット依存症について学ぶ ～スマホ・ケータイ安全教室 6月11日(木)～

れいめい高校の堀省吾先生を講師にお招きし、「スマホ・ケータイ安全教室」を開催しました。堀先生はスマホ依存防止学会に所属されており、これまで多くの中学校で、インターネットに関わるさまざまなトラブルを生徒自身の判断で回避できるよう、情報モラルやネット依存について分かりやすく講演されてきました。

堀先生の講話を聞き、生徒たちが自分自身のスマホの使用状況等について振り返る、とてもいい機会となったようです。生徒の感想をいくつか紹介いたします。



【スマホ・ケータイ安全教室】

【生徒の感想（一部抜粋）】

- スマホ・ケータイ安全教室の講話を聞いて、スマホの与える影響は恐ろしいなあと感じました。スマホを見るのは薬物と同じだと考えて、これからはスマホを見る頻度を大幅に減らしたいと思いました。もう受験生で勉強を頑張らないといけない時期です。この講話を一つの区切りとして勉強にシフトしていきたいです。まずは3週間、スマホを見ずに効果があるか試したいです。
- スマホやネットは、使うことで私たちの体に様々な影響を与えるということがよくわかった。また、それを止めるためにいろいろな国で、対策のためにスマートフォンの利用を制限したり、16歳未満の子どもにはインターネットを禁止したりしていることを知った。私たちは、今、成長期で、心も体も大きく成長する時期だから、その成長に悪い影響を与えないために、インターネットの使い方を見直していきたい。



【交通安全教室 6/15】

薩摩川内警察署による交通安全教室を実施しました。今年4月1日から「交通違反通告制度」、いわゆる「青切符」制度が自転車に適用されている話を中心に、交通安全について学びました。



【1学期末テスト 6/18・19】

1学期末テストが行われました。テスト結果をもとこれまでの学習を振り返り、既習内容の確実な定着、学力向上にむけて、学期末の学習を充実させたいと思います。